社会福祉法人 さぽうと 21
Support21 Social Welfare Foundation

Support21

# Newsletter

Vol.71 2021.6

## コロナ禍での就職活動 ～今春から医療にかかわる支援生を紹介します～

新型コロナウィルスの感染拡大が長期化する中、3月に卒業を迎えた支援生（就学支援受給者）が新たな道を歩み出しています。医師、看護師としてのキャリアをスタートさせた2人の支援生の抱負をご紹介します。

### 東京医科歯科大学 医学部卒業　陸（りく） 祥児（しょうじ）

私は一度別の大学で経済学を修めてから医学の分野に飛び込みました。9年間も学生を続けて、ついに社会人生活を迎えようとしています。これほど長い期間勉学に励むことができたのも、さぽうと２１を始めとした様々な人々や団体の助けがあってこそでした。さぽうと２１の支援者の皆様や事務局の皆様、研修会で刺激を与えてくれた他の支援生には心から感謝しております。

卒業後は2年間の初期研修があります。私は色々と考えた結果、岐阜県の病院にお世話になることにしました。その後は後期研修と呼ばれる専門科目に関しての研修を3～4年程行うことになります。また、将来的には自らのルーツである中国で学位を取り、両国の人材交流の架け橋となることを密かに計画しています。

医師として臨床経験を積んでいく中で、人々の厚生に大きな役割を果たせるよう今後精一杯精進していきたいと思っています。

### 昭和大学 保健医療学部 看護学科卒業　橘（たちばな） 優里亜（ゆりあ）

看護学生は3年次に長期の実習があるため、就活を始めるのは4年生になってからです。私は特に就活開始が遅く、本格的に始めたのは10月からでした。6月に附属の大学病院への就活に失敗し、悔しさと自信喪失でなかなか次への行動に踏み出すことができなかったからです。この時日本に来てはじめて、自分は周りの日本人と違う扱いを受けたのではないかと思ったほどでした。気持ちを切り替え、最終的には次に受けた病院から内定を頂くことができました。

私の性格上、置かれた環境への順応性が高いと自負していることと、自分のやりたい急性期治療に携われることがとても嬉しいので、この就職先でキャリアを積みたいと思います。自分の仕事に誇りを持って専門性の高いサービスを提供できるようになりたいです。就活の面接で働く意義は何かと問われた際に、医療職は誰かのためであると同時に自分の存在意義でもあると考えました。私が社会人になったら、常に誰かに必要とされるように、専門職としての自覚をもち、自己研鑽を続けることを意識して働きたいと思っています。

## 2021年度生活支援プログラム･坪井一郎･仁子学生支援プログラム･PP奨学金

今年は、ベトナム、中国、ブラジル、ペルー、ミャンマーなどにルーツがある専門学校生、大学（院）生や、日本国籍者等の82名を支援します。将来、医療分野や環境問題、多文化共生などに関わり、社会に貢献したいと望んでいる学生が多くおります。引き続き、皆様のご支援をお願い申し上げます。

# 「坪井基金」支援生による報告会

2021年2月27日（土）、大学生・大学院生対象の就学支援プログラム「坪井一郎・仁子学生支援プログラム基金（通称：坪井基金）」の支援生8名による報告会がオンライン形式で開催されました。

今年のテーマは「SDGs 達成に向けて取り組んでいること」。支援生が2チームに分かれ、それぞれが学んできた医療、教育、環境問題などの分野で、「自分が世界にどう貢献できるか」を発表しました。

今回はオンライン開催だったことから、ベトナムやシンガポールなど、海外で活躍する卒業生も集うことができました。参加者からは「SDGs 達成に向けた発表者のビジョンが伝わり、とてもためになった」「卒業生の世界での活躍を聞けて、外国人であることに、より誇りを持てた」などの感想が聞かれました。

これからも、卒業生と現支援生が集い語らう場を作っていきたいと思います。

## 卒業生便り　宮ヶ迫 ナンシー 理沙さん（ルーツ：ブラジル）

2011年度の坪井支援生としてお世話になってから早10年が経とうとしています。

大学院では教育社会学を主としたゼミで学び、特別な教育的ニーズに配慮した独自の支援教育を理念とした神奈川県の事例をテーマに、日本の支援教育における外国につながりを持つ子どもたちの位置付けについて研究しました。

学んだ分野を活かす道に進みたいと考えつつも、大学院修了後は渡伯のチャンスに巡り合い、W 杯と初の南米開催となったリオ五輪と、母国を舞台とした国際的なイベントを現地で経験することができました。日本の報道チームの取材コーディネーター、通訳としての仕事を経験させてもらい、ブラジルとの関係も以前より濃厚に、ポルトガル語についても自信を得ることができました。

日本に戻ってからは世界の音楽を日本に紹介する雑誌編集部でお世話になり、二国のかけ橋になれたらと夢中で仕事をしました。回り道をたくさんしてきていますが、現在はこれまでにやってきたことをつなぎ合わせられるよう、新たな道を模索しているところです。

2014年ワールドカップ取材コーディネーターとして働いた、リオデジャネイロにて

さぽうと21では、たくさんの仲間との出会いがありました。夏期研修会の企画に携らせていただいたこともありました。なんらかの事情で外国から日本に来て暮らすさまざまなバックグラウンドをもった支援生たちとの出会いは、書物でしか知らなかった歴史やそれぞれのコミュニティのストーリーをリアルに知ることができました。私の知見をひろげてくれた豊かな記憶として刻まれています。

学習支援室

# オンラインで何とか楽しく乗り切った2020年度の文化庁「生活者事業」

ここでは、全ての取り組みをオンライン（ZOOM 利用）で実施することとなった文化庁委託「「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム B」（「生活者事業」）の様子を少し、ご報告させていただきます。

さぽうと２１「生活者事業」は、地域日本語教室を、外国人がただ日本語を学ぶ場としてとらえるのではなく、外国人、日本人が共に参加する「防災学習の場」としてもとらえていこうと、2019年度にスタートしました。

以前からヘルプカード作成、ワークショップ実施等で協働している（特非）プラス・アーツに本事業でも力を貸していただき、2020年度には全30シートの防災紙芝居が完成しました。

教室実施の日には、毎回1枚だけ、紙芝居を読み合わせすることで、その場に参加した人、一人一人が、防災に関する意識と知識をもち、発災時に落ち着いて行動できるようになることを目指しています。（こちらの紙芝居はホームページでご紹介していますので、ぜひ皆さん、ご自由にお使いください）

防災紙芝居を使って、
「避難所で役に立つ防災グッズ」
について学びます

また、2020年度は事業実施の中で、コロナ禍にあって多くの地域の日本語教室が、なかなかオンラインを利用した活動に踏み切れない状況を知り、ボランティア向けの「オンライン・スキルアップ講座」を１カ月にわたり開催しました。様々な地域から、100名以上の方が参加してくださいました。講座の最後には、オンラインの「防災ワークショップ」に楽しく参加。「（オンラインでの日本語支援に不安の多い）今の自分に本当に必要なことが学べた」「オンラインでの活動ができそうです」など、たくさんの感謝の言葉をいただく講座となりました。

さらに「日本語教室」でも、オンラインの「防災ワークショップ」に挑戦しました。在宅避難が推奨されるコロナ禍にあって、皆が「おうち」から参加するワークショップは、これまで以上に参加者のニーズに合致するものでした。共有画面でみんなでハザードマップを見たり、言語別の小部屋（ブレークアウトルーム）に分かれて母語もまじえて先生の講義の復習をしたりと、オンラインならではの良さを生かしたワークショップとなりました。

2020年度、何とか質を落とすことなく、事業を完了させることができました。それを後押ししてくれたのは、さぽうと２１に集う皆さんの前向きな気持ち、負けないぞという強い意志、そして日ごろから培ってきた信頼関係によるものにほかなりません。

防災に関する様々な教材をホームページに掲載しています！
上記QRコードからもアクセスいただけます。

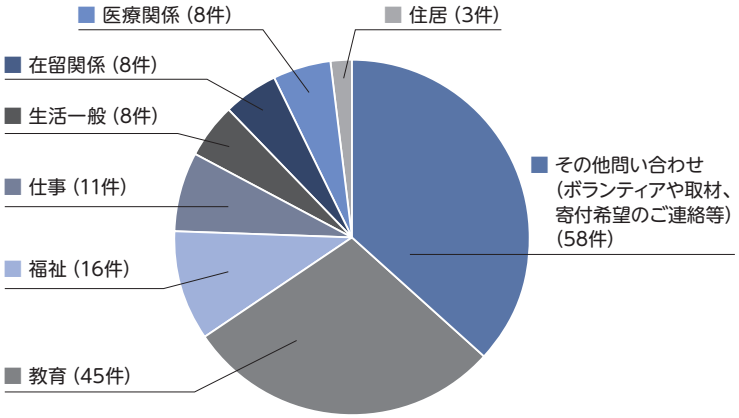
2020年度の相談事業統計

# 相談支援の現場から

毎年、定住外国人の方からも日本人の方からも多種多様なご相談がありますが、2020年度は18ヵ国の方から、合計157案件にものぼる相談が寄せられました。2019年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症に関連したご相談は増加傾向にあり、全体の約3割を占めています。どこに相談をしてよいか分からず、偶然インターネットで見つけた当団体にお電話くださり、安堵された様子で様々なお悩みを話された方もおられました。仕事が減り、生活困窮に陥ってしまった親御さんからの相談、生活費の工面に苦労する親を見て、自身の進学に悩む学生からの相談等、日本社会が直面している課題は、日本に暮らす外国の方にとっても例外ではなく、依然厳しい状態が続いています。

相談支援を進める中で、支援が困難なケースについては、月に2回開催しているケース検討会で取り上げ、スタッフ同士で話し合いながら最適な支援方法を探り、対応しています。今年度も厳しい状況は続きそうです。ふと横を見ると、あるいは後ろを見ると、そっと寄り添うさぽうとがいる、そんな思いを持っていただけるよう、これからも相談業務に取り組んでまいります。

**2020年度 相談統計(18か国、合計157案件)**




## 新たにスタートした2つの学習支援室

従来からの目黒・錦糸町教室に加えて、2020年7月からは千葉県の行徳地域で教室を始動することができました。(公財) 日本国際交流センター「外国ルーツ青少年未来創造事業」の助成を受け開講した行徳教室では、新たな層(ムスリムの青少年)へのアプローチを行っています。また、2021年4月からは、(公財) アジア福祉教育財団からの委託を受け、第三国定住難民の集住地域である千葉市美浜区高洲において、小学生向けの平日の学習支援室がスタートしています。

多くの方、団体が関わってくださるからこそ、当団体の活動は成り立っています。応援してくださる皆さまのご期待に応えられるよう、今年度も事業を進めてまいります。



Newsletter
Support21 Social Welfare Foundation
Vol.71 2021.6
社会福祉法人 さぽうと21
理事長　吹浦 忠正

### 社会福祉法人さぽうと２１は…

認定NPO法人難民を助ける会 (AAR Japan) を母体に、その国内事業を受け継ぎ、社会福祉法人として1992年に設立されました。
日本で生活する難民やその家族、定住外国人などの相談に乗り、学業継続のための就学支援や学習支援など、自立を後押しする活動を行っております。また、日本人の学生には、pp奨学金を2017年度から実施しています。

### 私たちの活動を応援してくださる方を求めています！

■会　員：法人会費50,000円／個人会費5,000円
■ご寄付：随時受付
■マンスリーサポーター：随時受付

詳しくはこちら➡

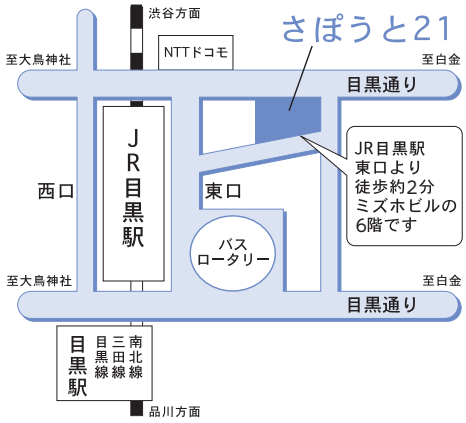
会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

### ◆会費・寄付のご送金口座◆

| | |
|---|---|
| ゆうちょ銀行 | 振替口座：00180－7－25470<br>加入者名：社会福祉法人 さぽうと２１ |
| | ※通信欄に会費または寄付とご明記ください |
| 三井住友銀行 | 目黒支店(普) 851872<br>名 義：社会福祉法人 さぽうとにじゅういち |
| みずほ銀行 | 目黒支店(普) 1180279<br>名 義：社会福祉法人 さぽうとにじゅういち |
| 三菱UFJ銀行 | 目黒駅前支店(普) 1390060<br>名 義：社会福祉法人 さぽうとにじゅういち |
| | ※銀行振込み後は事務局までご一報ください |

### お問い合わせ

**社会福祉法人 さぽうと21**

住所：
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階

TEL：03-5449-1331
FAX：03-5449-1332
E-mail：info@support21.or.jp
URL：http://www.support21.or.jp